

浜の活力再生プラン（素案）

1 地域水産業再生委員会

組織名	下風呂地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 平井 賢一

再生委員会の 構成員	下風呂漁業協同組合、風間浦村、青森県下北地域県民局むつ水産事務所
オブザーバー	—

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	青森県下北郡風間浦村下風呂地区： 漁業者数11名 いか釣り漁業（全員が一本釣り漁業、刺網漁業、採介藻漁業を兼業）
-------------------	---

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

風間浦村下風呂地区は本州最北端青森県下北半島の西北部に位置し、津軽海峡側に面しており、古くからイカ類や豊富な磯資源を中心とした漁業と下風呂温泉による観光業で栄えている。水産業は当該地区の基幹産業であり、いか釣り漁業、一本釣り漁業、刺網漁業及び採介藻漁業を中心として営まれている。地区の過去5ヵ年平均の水揚げ量は、数量で578ト、金額2億2千万円であり、うちスルメイカの水揚げは、数量で439ト、金額で1億2千万円、全体の76%、金額で57%を占めるに至っている。また、磯根資源も豊富であることからコンブ、フノリ、アワビ、ウニ等への依存度も高くなっている。それらの中でも、とりわけアンコウについては、平成26年度に「風間浦鮫鱈」という名称が商標登録され、ブランド化へ向けた取り組みが行われている。

しかしながら近年、主要魚種であるスルメイカの来遊量の減少、全般的な魚価の低迷、加えて燃油高や資材高騰などによる経営コストの増加により、水産業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にある。

(2) その他の関連する現状等

本州最北端下北半島の西北部に位置する下風呂地区は、主要都市への輸送に時間がかかり、販路拡大が難しい地域になっている。

また、幹線道路が一本しかなく、今後東日本大震災級の地震が来れば通行止めとなり町は孤立してしまう。

さらに、近年は、漁業後継者不足により全ての漁業種類において漁業者の高齢化が進んでおり、今後、漁業者が減少することによる漁業生産への影響も懸念されている。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

- ①漁獲物の付加価値向上による漁業収入の増加を図る。（対象漁法：いか釣り漁業、一本釣り漁業、刺網漁業）
- ②アンコウについて、2kg未満の小型魚の再放流や産卵期を除いた漁期の設定など、安定した漁業生産を目的とした資源管理に取り組む。（対象漁法：刺網漁業）
- ③観光業との連携によるイベントでのPR活動により、スルメイカ、アンコウ、フノリの販売促進に取り組む。（対象漁法：いか釣り漁業、刺網漁業、採介藻漁業）
- ④磯焼け対策として、ウニの密度管理やコンブの縦縄式養殖により藻場の再生に取り組む。（対象漁法：採介藻漁業）
- ⑤船底清掃及び減速航行により、燃油コストの削減を図る。（対象漁法：いか釣り漁業、一本釣り漁業、刺網漁業）

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

青森県海面漁業調整規則、漁業権行使規則、青森県資源管理指針、漁協資源管理計画（いか釣り）、アンコウ資源管理協議会指針（刺網漁業）

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成26年度）

以降、以下の取組内容は、取組の進捗状況や得られた知見等を踏まえ、必要に応じて、見直すこととする。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の収入向上の取組及びコスト削減の取組により、本プランの対象となる漁業者は基準年から7.8%の所得向上を図る。</p> <p>1) 水産物の付加価値向上の取組</p> <p>○いか釣り漁業 いか釣り漁業者は、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組むとともに、溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、水抜き穴のある魚箱に、昼間作業であるために懸念される直射日光よけのためシートを被せ保冷性を高めるよう努める。</p> <p>○一本釣り漁業 一本釣り漁業者はサクラマス・ヒラメ等を対象に、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組む。</p> <p>○刺網漁業 刺網漁業は、カレイ類・ヒラメ等を対象に、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組む。また、漁業者及び漁協は、12月～3月の間、当海域で漁獲されるアンコウについて、これまで陸揚げ後に胃内容物等の除去を行っていたものから、新たに以下の取組を行うことで品質保持に努める。 (1)5kg以上で生きた状態で水揚げされるものは、船上で速やかに胃内容物を除去した上で箱詰め（施氷による低温管理）を行う。なお、これらの処理を行ったものについては「風間浦鮫鱈」と書かれたブランドタグを取り付けることで、差別化を図る。 (2)2kg以上5kg未満で生きた状態で水揚げされるものは、魚槽内での活保管を行うことで、海上輸送中の鮮度低下の抑制に努める。 これらの取組を実施することで、水産物の付加価値向上を図り、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>2) アンコウの資源管理の取組</p> <p>○刺網漁業 漁業者は2kg未満の小型のアンコウについて、再放流を行うことで、アンコウの資源管理に取組み、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>3) スルメイカ、アンコウ及びフノリの販売促進に向けた取組</p> <p>○いか釣り漁業、刺網漁業及び採介藻漁業 漁業者は、漁協、村、商工会と連携し、風間浦村が主催する「元祖烏賊様レース」、「風間浦鮫鱈祭り」、「布海苔採り体験ツアー」等のイベントに参加し、下風呂温泉にきた観光客を含めた県外的一般来訪者への試食会や水産物販売のほか、新たな料理方法の紹介や加工品販売を行うとともに、アンケート等を行い、消費者ニーズの把握に努める。併せて、地元下風呂小学校での漁協女性部によるスルメイカの捌き方教室等の開催を通じて、地元での海産物の消費拡大に努める。 これらの取組を実施することで、スルメイカ、アンコウ及びフノリの販売促進に向けた取り組みを行い、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>4) 磯焼け対策に関わる取組</p> <p>○採介藻漁業 漁業者及び漁協は、磯焼けした海域の藻場の再生を図るため、食害生物であるウニについて、生息密度が高い海域から採捕し、生息密度が低く、海藻が比較的繁茂している海域へ移す密度管理を実施することやコンブの種糸を巻き付けた50mのロープを新たに海底に32本設置し、コンブの養殖を行うことで藻場の再生を図る。 また、漁業者は、一般漁場において、生息密度が高く、餌不足により身入りが悪化しているウニの身入り向上に努めるために、養殖生産したコンブを餌としてウニに与えて身入りを良くし、ウニの漁獲量及び漁獲金額の増加に繋げる。 これらの取組を実施することで、磯焼け対策による漁場の管理を行い、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1) 船底清掃及び減速航行の実施 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業、水産多面的機能発揮対策事業</p>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の収入向上の取組及びコスト削減の取組により、本プランの対象となる漁業者は7.8%の所得向上を図る。</p> <p>1) 水産物の付加価値向上の取組</p> <p>○いか釣り漁業 いか釣り漁業者は、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組むとともに、溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、魚箱の底に敷き詰めた氷の上にシートを被せ、氷とスルメイカが直接触れないようにした上で保冷性を高めるよう努める。 また、漁業者は、市場等の要望を受けて、イカの高鮮度保持を目的とした「イカ活締め器」の導入を検討し、そのため当該地区地域水産業再生委員会が開催する専門家を講師とした講習会において、イカの活締めや出荷形態見直しによる高鮮度保持技術の習得に取組む。</p> <p>○一本釣り漁業 一本釣り漁業者はサクラマス・ヒラメ等を対象に、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組む。</p> <p>○刺網漁業 刺網漁業者は、カレイ類・ヒラメ等を対象に、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組む。また、漁業者及び漁協は、引き続き、12月～3月の間、当海域で漁獲されるアンコウについて、これまで陸揚げ後に胃内容物等の除去を行っていたものから、新たに以下の取組を行うことで品質保持に努める。 (1)5kg以上で生きた状態で水揚げされるものは、船上で速やかに胃内容物を除去した上で箱詰め（施氷による低温管理）を行う。なお、これらの処理を行ったものについては「風間浦鮫鱈」と書かれたブランドタグを取り付けることで、差別化を図る。 (2)2kg以上5kg未満で生きた状態で水揚げされるものは、魚槽内での活保管を行うことで、海上輸送中の鮮度低下の抑制に努める。 これらの取組を実施することで、水産物の付加価値向上を図り、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>2) アンコウの資源管理の取組</p> <p>○刺網漁業 漁業者は、2kg未満の小型のアンコウについて、再放流を行うことで、アンコウの資源管理に取組み、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>3) スルメイカ、アンコウ及びフノリの販売促進に向けた取組</p> <p>○いか釣り漁業、刺網漁業及び採介藻漁業 漁業者は、漁協、村、商工会と連携し、風間浦村が主催する「元祖烏賊様レース」、「風間浦鮫鱈祭り」、「布海苔採り体験ツアー」等のイベントに参加し、販売戦略に基づき、宣伝・販売に努める他、域外への新たな販路拡大に取り組む。併せて、地元下風呂小学校での漁協女性部によるスルメイカの捌き方教室等の開催を通じて、地元での海産物の消費拡大にも努める。 これらの取組を実施することで、スルメイカ、アンコウ及びフノリの販売促進に向けた取り組みを行い、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>4) 磯焼け対策に関わる取組</p> <p>○採介藻漁業 漁業者及び漁協は、引き続き、磯焼けした海域の藻場の再生を図るため、食害生物であるウニについて、生息密度が高い海域から採捕し、生息密度が低く、海藻が比較的繁茂している海域へ移す密度管理を実施することやコンブの種系を巻き付けた50mのロープを海底に32本設置し、コンブの養殖を行うことで藻場の再生を図る。 また、漁業者は、一般漁場において、生息密度が高く、餌不足により身入りが悪化しているウニの身入り向上に努めるために、養殖生産したコンブを餌としてウニに与えて身入りを良くし、ウニの漁獲量及び漁獲金額の増加に繋げる。 これらの取組を実施することで、磯焼け対策による漁場の管理を行い、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1) 船底清掃及び減速航行の実施 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策事業</p>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の収入向上の取組及びコスト削減の取組により、本プランの対象となる漁業者は16%の所得向上を図る。</p> <p>1) 水産物の付加価値向上の取組</p> <p>○いか釣り漁業 いか釣り漁業者は、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組むとともに、溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、魚箱の底に敷き詰めた氷の上にシートを被せ、氷とスルメイカが直接触れないようにした上で保冷性を高めるよう努める。また、市場等の要望により、「イカ活締め器」を導入し、船上での活締めを行い、併せて下氷による体色白化を防ぐために下氷の上に透明シートを敷いて出荷することで、イカの高鮮度・高品質化を図る。</p> <p>○一本釣り漁業 一本釣り漁業者はサクラマス・ヒラメ等を対象に、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組む。</p> <p>○刺網漁業 刺網漁業者は、カレイ類・ヒラメ等を対象に、引き続き、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組む。また、漁業者及び漁協は、12月～3月の間、当海域で漁獲されるアンコウについて、これまで陸揚げ後に胃内容物等の除去を行っていたものから、新たに以下の取組を行うことで品質保持に努める。 (1)5kg以上で生きた状態で水揚げされるものは、船上で速やかに胃内容物を除去した上で箱詰め（施氷による低温管理）を行う。なお、これらの処理を行ったものについては「風間浦鮫鱈」と書かれたブランドタグを取り付けることで、差別化を図る。 (2)2kg以上5kg未満で生きた状態で水揚げされるものは、魚槽内での活保管を行うことで、海上輸送中の鮮度低下の抑制に努める。 これらの取組を実施することで、水産物の付加価値向上を図り、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>2) アンコウの資源管理の取組</p> <p>○刺網漁業 漁業者は、2kg未満の小型のアンコウについて、再放流を行うことで、アンコウの資源管理に取組み、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>3) スルメイカ、アンコウ及びフノリの販売促進に向けた取組</p> <p>○いか釣り漁業、刺網漁業及び採介藻漁業 漁業者は、漁協、村、商工会と連携し、風間浦村が主催する各種イベントでのアンケート等に基づき立案した販売戦略の検証を行い、状況に応じて軌道修正する等、引き続き、新たな販路拡大に向けた取り組みを行う。併せて、地元下風呂小学校での漁協女性部によるスルメイカの捌き方教室等の開催を通じて、地元での海産物の消費拡大にも努める。 これらの取組を実施することで、スルメイカ、アンコウ及びフノリの販売促進に向けた取り組みを行い、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>4) 磯焼け対策に関わる取組</p> <p>○採介藻漁業 漁業者及び漁協は、引き続き、磯焼けした海域の藻場の再生を図るため、食害生物であるウニについて、生息密度が高い海域から採捕し、生息密度が低く、海藻が比較的繁茂している海域へ移す密度管理を実施することやコンブの種糸を巻き付けた50mのロープを海底に32本設置し、コンブの養殖を行うことで藻場の再生を図る。 また、漁業者は、一般漁場において、生息密度が高く、餌不足により身入りが悪化しているウニの身入り向上に努めるために、養殖生産したコンブを餌としてウニに与えて身入りを良くし、ウニの漁獲量及び漁獲金額の増加に繋げる。 これらの取組を実施することで、磯焼け対策による漁場の管理を行い、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1) 船底清掃及び減速航行の実施 引き続き、漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>風間浦村単独補助金</p>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の収入向上の取組及びコスト削減の取組により、本プランの対象となる漁業者は16%の所得向上を図る。</p> <p>1) 水産物の付加価値向上の取組</p> <p>○いか釣り漁業 いか釣り漁業者は、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組むとともに、溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、魚箱の底に敷き詰めた氷の上にシートを被せ、氷とスルメイカが直接触れないようにした上で保冷性を高めるよう努める。また、市場等の要望により、「イカ活締め器」を導入し、船上での活締めを行い、併せて下氷による体色白化を防ぐために下氷の上に透明シートを敷いて出荷することで、イカの高鮮度・高品質化を図る。</p> <p>○一本釣り漁業 一本釣り漁業者はサクラマス・ヒラメ等を対象に、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組む。</p> <p>○刺網漁業 刺網漁業者は、カレイ類・ヒラメ等を対象に、引き続き、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組む。また、漁業者及び漁協は、12月～3月の間、当海域で漁獲されるアンコウについて、これまで陸揚げ後に胃内容物等の除去を行っていたものから、新たに以下の取組を行うことで品質保持に努める。</p> <p>(1) 5kg以上で生きた状態で水揚げされるものは、船上で速やかに胃内容物を除去した上で箱詰め（施氷による低温管理）を行う。なお、これらの処理を行ったものについては「風間浦鮫鱈」と書かれたブランドタグを取り付けることで、差別化を図る。</p> <p>(2) 2kg以上5kg未満で生きた状態で水揚げされるものは、魚槽内での活保管を行うことで、海上輸送中の鮮度低下の抑制に努める。</p> <p>これらの取組を実施することで、水産物の付加価値向上を図り、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>2) アンコウの資源管理の取組</p> <p>○刺網漁業 漁業者は、2kg未満の小型のアンコウについて、再放流を行うことで、アンコウの資源管理に取組み、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>3) スルメイカ、アンコウ及びフノリの販売促進に向けた取組</p> <p>○いか釣り漁業、刺網漁業及び採介藻漁業 漁業者は、漁協、村、商工会と連携し、風間浦村が主催する各種イベントでのアンケート等に基づき立案した販売戦略の検証を行い、状況に応じて軌道修正する等、引き続き、新たな販路拡大に向けた取り組みを行う。併せて、地元下風呂小学校での漁協女性部によるスルメイカの捌き方教室等の開催を通じて、地元での海産物の消費拡大にも努める。</p> <p>これらの取組を実施することで、スルメイカ、アンコウ及びフノリの販売促進に向けた取り組みを行い、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>4) 磯焼け対策に関わる取組</p> <p>○採介藻漁業 漁業者及び漁協は、引き続き、磯焼けした海域の藻場の再生を図るため、食害生物であるウニについて、生息密度が高い海域から採捕し、生息密度が低く、海藻が比較的繁茂している海域へ移す密度管理を実施することやコンブの種糸を巻き付けた50mのロープを海底に32本設置し、コンブの養殖を行うことで藻場の再生を図る。</p> <p>また、漁業者は、一般漁場において、生息密度が高く、餌不足により身入りが悪化しているウニの身入り向上に努めるために、養殖生産したコンブを餌としてウニに与えて身入りを良くし、ウニの漁獲量及び漁獲金額の増加に繋げる。</p> <p>これらの取組を実施することで、磯焼け対策による漁場の管理を行い、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1) 船底清掃及び減速航行の実施 引き続き、漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>風間浦村単独補助金</p>

5年目（平成30年度）

取組の最終年度であり、前年度に引き続き行いが、目標達成が確実なものとなるよう、プランの取組状況を確認しつつ、必要に応じて施策の見直しを行う。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の収入向上の取組及びコスト削減の取組により、本プランの対象となる漁業者は16%の所得向上を図る。</p> <p>1) 水産物の付加価値向上の取組</p> <p>○いか釣り漁業 いか釣り漁業者は、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組むとともに、溶けた氷水がスルメイカに触れることで起こる白化を防ぐため、魚箱の底に敷き詰めた氷の上にシートを被せ、氷とスルメイカが直接触れないようにした上で保冷性を高めるよう努める。また、市場等の要望により、「イカ活締め器」を導入し、船上での活締めを行い、併せて下氷による体色白化を防ぐために下氷の上に透明シートを敷いて出荷することで、イカの高鮮度・高品質化を図る。</p> <p>○一本釣り漁業 一本釣り漁業者はサクラマス・ヒラメ等を対象に、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組む。</p> <p>○刺網漁業 刺網漁業者は、カレイ類・ヒラメ等を対象に、引き続き、漁獲物の迅速な箱詰め（迅速な施氷作業と出荷時期に応じた施氷量の調整による低温管理（5℃以下）を含む）による鮮度保持の徹底に取組む。また、漁業者及び漁協は、12月～3月の間、当海域で漁獲されるアンコウについて、これまで陸揚げ後に胃内容物等の除去を行っていたものから、新たに以下の取組を行うことで品質保持に努める。 (1)5kg以上で生きた状態で水揚げされるものは、船上で速やかに胃内容物を除去した上で箱詰め（施氷による低温管理）を行う。なお、これらの処理を行ったものについては「風間浦鯨鰾」と書かれたブランドタグを取り付けることで、差別化を図る。 (2)2kg以上5kg未満で生きた状態で水揚げされるものは、魚槽内での活保管を行うことで、海上輸送中の鮮度低下の抑制に努める。 これらの取組を実施することで、水産物の付加価値向上を図り、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>2) アンコウの資源管理の取組</p> <p>○刺網漁業 漁業者は、2kg未満の小型のアンコウについて、再放流を行うことで、アンコウの資源管理に取組み、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>3) スルメイカ、アンコウ及びフノリの販売促進に向けた取組</p> <p>○いか釣り漁業、刺網漁業及び採介藻漁業 漁業者は、漁協、村、商工会と連携し、風間浦村が主催する各種イベントでのアンケート等に基づき立案した販売戦略の検証を行い、状況に応じて軌道修正する等、引き続き、新たな販路拡大に向けた取り組みを行う。併せて、地元下風呂小学校での漁協女性部によるスルメイカの捌き方教室等の開催を通じて、地元での海産物の消費拡大にも努める。 これらの取組を実施することで、スルメイカ、アンコウ及びフノリの販売促進に向けた取り組みを行い、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p> <p>4) 磯焼け対策に関わる取組</p> <p>○採介藻漁業 漁業者及び漁協は、引き続き、磯焼けした海域の藻場の再生を図るため、食害生物であるウニについて、生息密度が高い海域から採捕し、生息密度が低く、海藻が比較的繁茂している海域へ移す密度管理を実施することやコンブの種糸を巻き付けた50mのロープを海底に32本設置し、コンブの養殖を行うことで藻場の再生を図る。 また、漁業者は、一般漁場において、生息密度が高く、餌不足により身入りが悪化しているウニの身入り向上に努めるために、養殖生産したコンブを餌としてウニに与えて身入りを良くし、ウニの漁獲量及び漁獲金額の増加に繋げる。 これらの取組を実施することで、磯焼け対策による漁場の管理を行い、本プランの目標達成を確実なものとするよう努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1) 船底清掃及び減速航行の実施 引き続き、漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を削減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>風間浦村単独補助金</p>

※プランの実施期間が6年以上となる場合、記載欄は適宜増やすこと。

※「活用する支援措置等」欄に記載するのは国の支援措置に限らない。

(4) 関連機構（機関）との連携

青森県水産振興課、むつ水産事務所、下北ブランド研究所及び水産総合研究所から指導を受け、各年度毎に、漁業所得の向上面について、定量的に分析・評価を行う。
また、問題点については原因を調査し、解決に向けた課題整理を行う。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の %向上	基準年	平成 年度：漁業所得	千円
	目標年	平成 年度：漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
省燃油活動推進事業	消費燃料の削減（漁船船底洗浄及び減速航行）
水産多面的機能発揮対策事業	藻場の再生活動（ウニの密度管理、海藻の種苗投入）

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。

※本欄の記載により、関連施策の実施を確約するものではない。